

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2010年第50週
(12月13日～12月19日)

- * 2010年12月22日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は月報告(2010年11月)の疾患及び感染症豆知識
「ロタウイルス感染症」も掲載しています。

平成22(2010)年12月24日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2010年50週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		47週	48週	49週	50週	年累計	50週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							2
	結核	66	68	59	50	3,972	334	25,065
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ (H5N1)							
三類	コレラ					2		11
	細菌性赤痢		3	1	1	85	2	227
	腸管出血性大腸菌感染症	3	2	3	2	337	13	4,082
	腸チフス					12		30
	パラチフス					5		21
四類	E型肝炎					8	2	60
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎	1				45	3	337
	エキノコックス症					1		12
	黄熱							
	オウム病							10
	オムスク出血熱							
	回帰熱							1
	キャサナル森林病							
	Q熱							2
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					1		1
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病	5		1	2	13	31	350
	デング熱		3			68	2	239
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱					1		121
	日本脳炎							4
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア					28	2	73
野兎病								
ライム病					1		12	
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽					1		3	
レジオネラ症	2			1	54	3	701	
レプトスピラ症					2		22	
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		47週	48週	49週	50週	年累計	50週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢		3	7	2	169	7	799
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	1	2	1	47	2	210
	急性脳炎 *2					14	3	226
	クリプトスポリジウム症					3		16
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1	1	15	3	159
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1			19	1	120
	後天性免疫不全症候群	5	6	14	9	482	14	1,434
	ジアルジア症					13		78
	髄膜炎菌性髄膜炎							7
	先天性風しん症候群							
	梅毒	4	1	5	5	168	7	588
	破傷風					5		99
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	1		2	17	3	115
	風しん		1		2	14	3	86
麻しん	1	1	3	2	74	5	440	
新型※	新型インフルエンザ *3	—	—	—	—	—	—	
2010/12/22集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

※ 新型インフルエンザ等感染症

*3 2009年4月28日に指定された。現時点では届出不要。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 50件 肺結核32件、その他の結核18件で、推定感染地は国内49件、中国1件、年齢は10歳未満2件(うち5歳未満1件)、10歳代1件、20歳代6件、30歳代5件、40歳代4件、50歳代6件、60歳代10件、70歳代3件、80歳代12件、90歳以上1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 1件 菌種はソンネ。推定感染地はインドで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。
腸管出血性大腸菌感染症 2件 どちらも患者。血清型・毒素型はO157(VT2)1件、O111(毒素型不明)1件で、年齢は5歳未満1件、10歳代1件であった。

〈四類感染症〉

つつが虫病 2件 推定感染地はどちらも島しょ地域であった。
レジオネラ症 1件 肺炎型で、年齢は70歳代。推定感染地は国内で、感染経路はその他(不明)である。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 2件 腸管アメーバ症1件、腸管外アメーバ症1件。推定感染地はどちらも国内で、推定感染経路は経口及び性的接触1件、その他(不明)1件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型。推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(異性間)であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 1件 遺伝性GSSで、年齢は50歳代であった。

後天性免疫不全症候群 9件 無症候キャリア7件、AIDS2件。無症候キャリアの年齢は20歳代3件、30歳代1件、40歳代1件、60歳代1件、70歳代1件、AIDS患者の年齢は30歳代1件、70歳代1件である。推定感染地は国内7件、タイ及び台湾1件、不明1件、推定感染経路は性的接触7件(同性間4件、異性間2件、両性間1件)、不明2件であった。

梅毒 5件 早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症候1件。全て推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触(同性間1件、異性間2件、性別不明2件)であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2件 耐性遺伝子はVanB1件、不明1件で、どちらも便から菌が分離・同定されている。

風しん 2件 どちらも検査診断例で、年齢は20歳代、風しん含有ワクチン接種歴は不明であった。

麻しん 2件 麻しん(臨床診断例)1件、修飾麻しん(検査診断例)1件。年齢はどちらも20歳代で、麻しん含有ワクチン接種歴は無し1件、1回1件であった。

定点把握対象疾患 報告数 2010年50週

定点種別	対象疾患	2010年					報告医療機関数	定点医療機関数
		47週	48週	49週	50週	(定点当たり)		
小児科	RSウイルス感染症	75	94	108	125	0.84	149	150
	咽頭結膜熱	54	84	89	120	0.81		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	275	352	385	469	3.15		
	感染性胃腸炎	2,003	2,652	2,902	2,965	19.90		
	水痘	199	236	251	299	2.01		
	手足口病	27	25	19	21	0.14		
	伝染性紅斑	84	82	102	84	0.56		
	突発性発しん	83	88	81	77	0.52		
	百日咳	0	3	1	14	0.09		
	ヘルパンギーナ	11	6	15	6	0.04		
	流行性耳下腺炎	59	71	56	64	0.43		
	不明発しん症(注1)	9	10	9	6	0.04		
MCLS(川崎病)(注1)	1	1	3	2	0.01			
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	172	219	301	451	1.57	288	290
眼科	急性出血性結膜炎	5	1	1	0	0.00	39	39
	流行性角結膜炎	26	27	37	37	0.95		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1	0	0	0	0.00	24	25
	無菌性髄膜炎	0	1	0	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	17	16	14	16	0.67		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2	1	1	2	0.08		
2010/12/22集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病)は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・咽頭結膜熱の定点当たり報告数は4週連続して増加した。感染症法施行(1999年)以来、同時期としては最も多い。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。過去5年平均の同時期と比較して多い。
- ・感染性胃腸炎の定点当たり報告数は9週連続して増加した。現在は警報が出ている状況であり、注意が必要である。
- ・伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少した。しかし過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は7週連続して増加した。
- ・マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微増した。過去5年平均の同時期と比較して多い。

(定点医療機関からのコメント)

江東区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:カンピロバクター腸炎11歳児

中野区保健所管内定点医療機関

- ・不明発しん症:4歳児。溶レン菌罹患後7日服薬した時に麻しん様発しんが出現。発熱なし。咽頭拭い液による麻しんのPCRは陰性。溶レン菌も消失し、薬しんも考え服薬中止後、3日目には色素沈着を残さずに消退しました。

北区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:発生が多くなってきたが、例年、当院のピークは50~60人台で、まだ増加の可能性あり。

板橋区保健所管内定点医療機関

- ・感染性胃腸炎:成人1名ノロウイルス陽性。

※ インフルエンザに関するコメントは13頁にまとめて記載しました。

～ 訂正のお知らせ ～

MCLS(川崎病)の報告数の訂正がありましたので、お知らせします。
42週:2件 43週:2件 44週:3件 45週:3件 46週:3件 47週:1件

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2010年50週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	14		2	22	2			4		
～11か月	31	4	3	179	15	2	4	35		1
1歳	40	21	14	357	43	11	2	33		1
2歳	19	16	13	288	43	5	5	3	1	1
3歳	7	15	50	269	51	1	3	2		1
4歳	7	20	58	302	41	2	9		2	
5歳	3	15	60	256	42		14			
6歳	1	9	54	201	25		10		2	
7歳	2	4	55	197	6		20			
8歳		7	54	128	13		9			
9歳		1	32	95	3		3			
10～14歳	1	3	54	257	11		4		5	1
15～19歳			1	53			1			
20～29歳		5	19	361	4				4	1
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	125	120	469	2965	299	21	84	77	14	6
先週比	17	31	84	63	48	2	-18	-4	13	-9

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月		1	1			
～11か月			1	4		
1歳	1	3		10		
2歳	7			18		1
3歳	11			18		1
4歳	7	1		23		1
5歳	7			42		1
6歳	7			37		
7歳	6			28		
8歳	6			28		1
9歳	5			15		1
10～14歳	7	1		55		1
15～19歳				21		2
20～29歳				45		3
30～39歳				52		14
40～49歳				33		4
50～59歳				13		1
60～69歳				4		2
70～79歳				4		4
80歳以上				1		
合計	64	6	2	451		37
先週比	8	-3	-1	150	-1	

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2010年50週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳	2	2
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計	2	2

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2010年50週

定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	3			30			1	2		
中央区			2	25	2			2		
みなと	5	8	21	72	21	1	1	6	2	
新宿区	6	2	11	87	3		1	3		
文京	6		9	65	8					
台東	6	7	5	69	6		4	2		2
墨田区	1	2	10	36	23					
江東区	2	2	21	169	6	1	6	3		
品川区	1		9	102	4	1	2	1		1
目黒区				38	2	2	1			
大田区	9	21	33	211	12	3	17	3		
世田谷		1	10	181	17	3	10	2		
渋谷区		3	7	38	1	1		1		
中野区	2	7	14	97	4			5		1
杉並			3	103	8		3	3		
池袋	3		1	44	3			2		
北区			9	94	11		1	3		
荒川区	1	6	12	41	2			3		
板橋区		1	4	39	7				1	
練馬区		1	20	125	9		1	2	2	
足立	2	18	36	145	6	2		5		
葛飾区			14	70	6	1	4	2		
江戸川	6	10	82	150	6		8	2		1
八王子市	10	5	23	209	29	4	14	4	7	
西多摩	5		1	104	17		1	1	2	
南多摩	1	4	21	69	8			1		1
町田	5		32	225	26	1		5		
多摩立川		3	4	43	11		3	1		
多摩府中	15	4	21	113	15	1	6	5		
多摩小平	36	12	33	171	26			8		
島しょ		3	1							

東京都合計	125	120	469	2,965	299	21	84	77	14	6
-------	-----	-----	-----	-------	-----	----	----	----	----	---

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】 2010年50週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田		1		3		
中央区	2					
みなと	9			6		
新宿区		1		5		1
文京	1			1		
台東				16		
墨田区				9		1
江東区	5			18		2
品川区	3			65		1
目黒区	2			6		
大田区	6			40		2
世田谷	5			26		1
渋谷区				6		1
中野区		1		6		2
杉並	1			16		3
池袋				6		1
北区				9		
荒川区				7		1
板橋区	1	1		4		4
練馬区	3			8		5
足立	2			12		1
葛飾区				14		
江戸川	1			14		
八王子市	3	2	1	47		3
西多摩				18		
南多摩	2			9		
町田	5			18		
多摩立川	3		1	17		
多摩府中	2			18		
多摩小平	2			26		8
島しょ	6			1		

東京都合計	64	6	2	451	-	37
-------	----	---	---	-----	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区	1	
品川区	1	
目黒区		
大田区		1
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		1
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計	2	2
-------	---	---

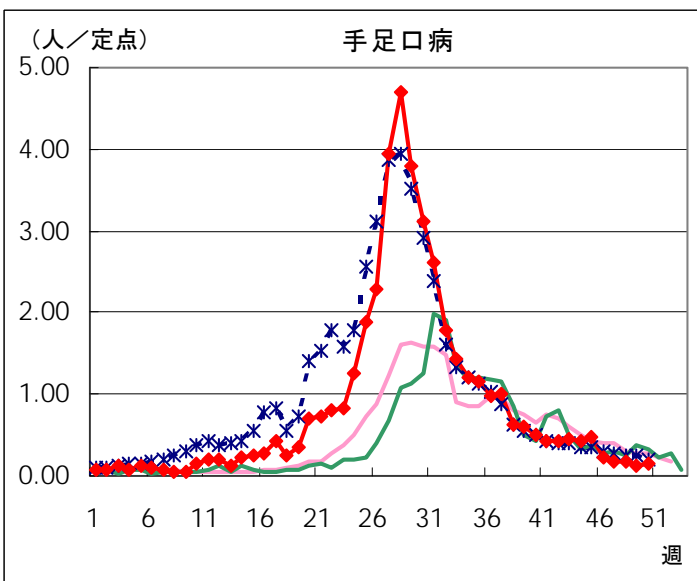
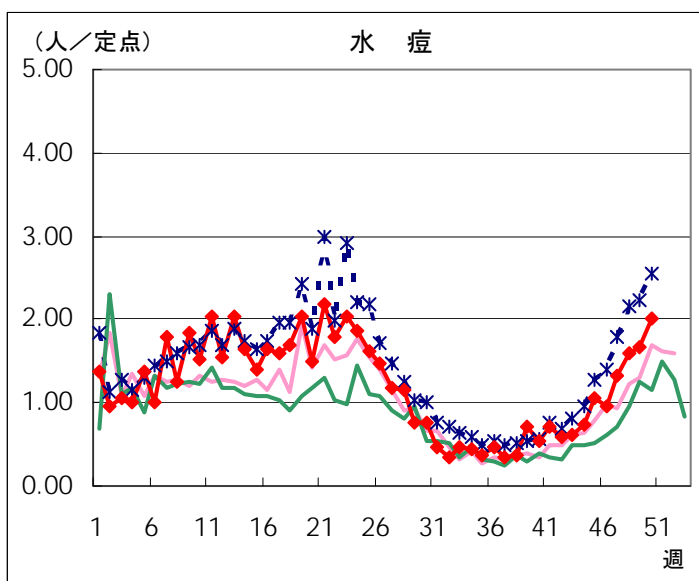
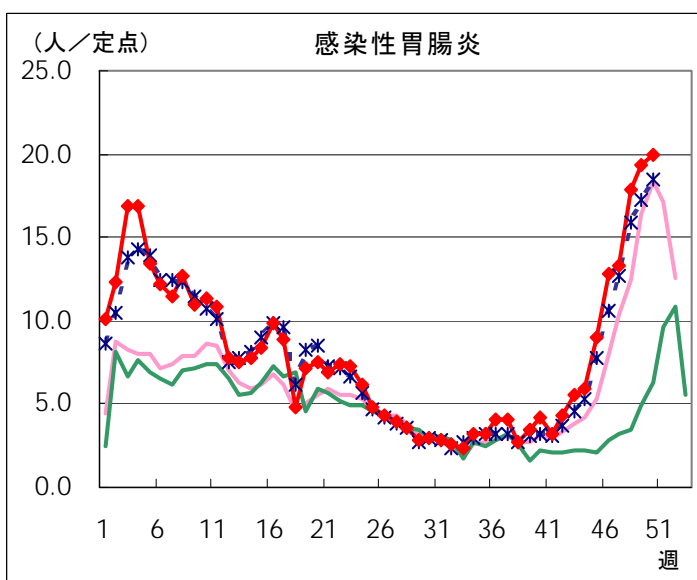
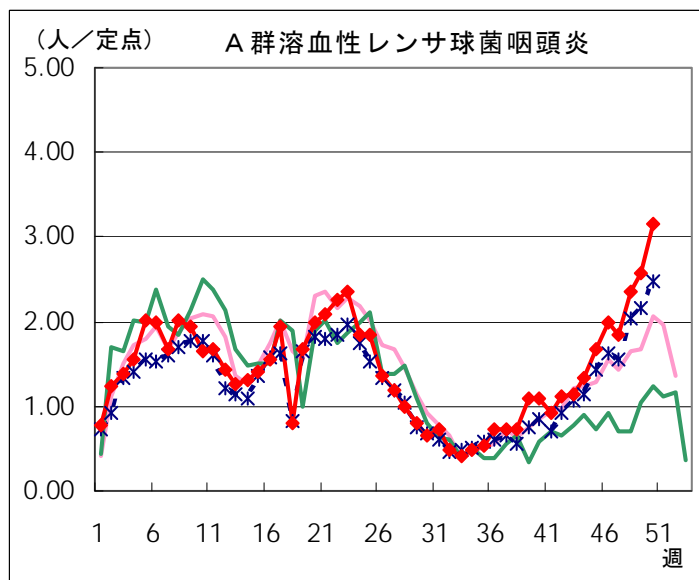
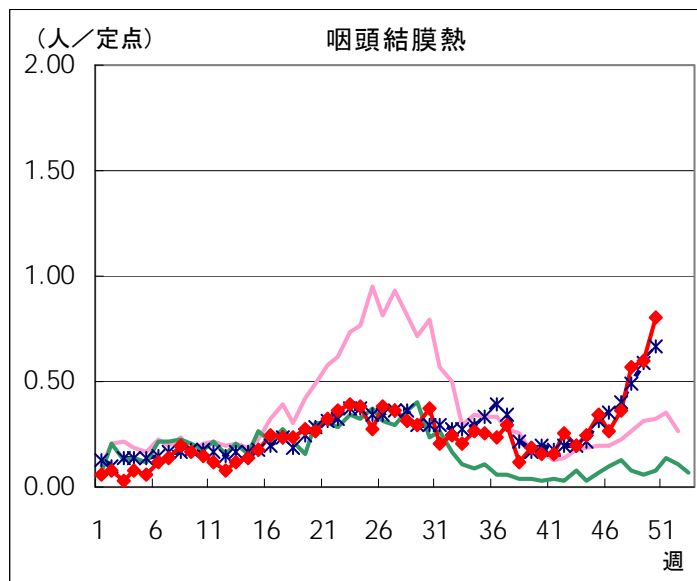
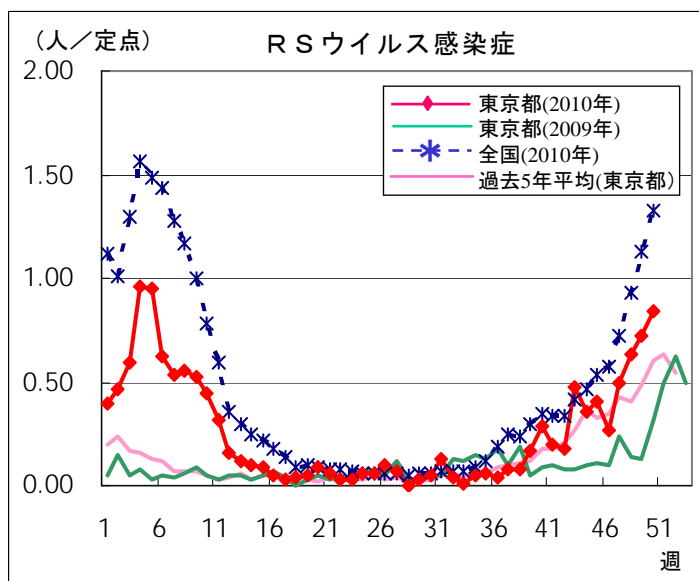
定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2010年50週

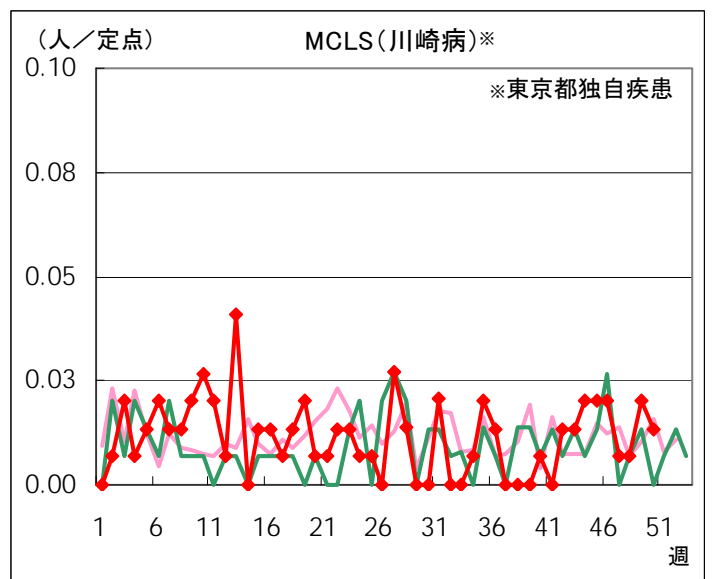
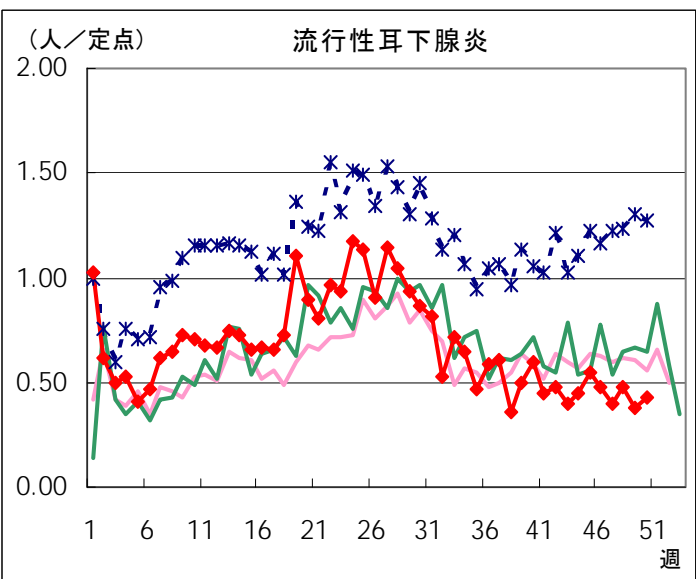
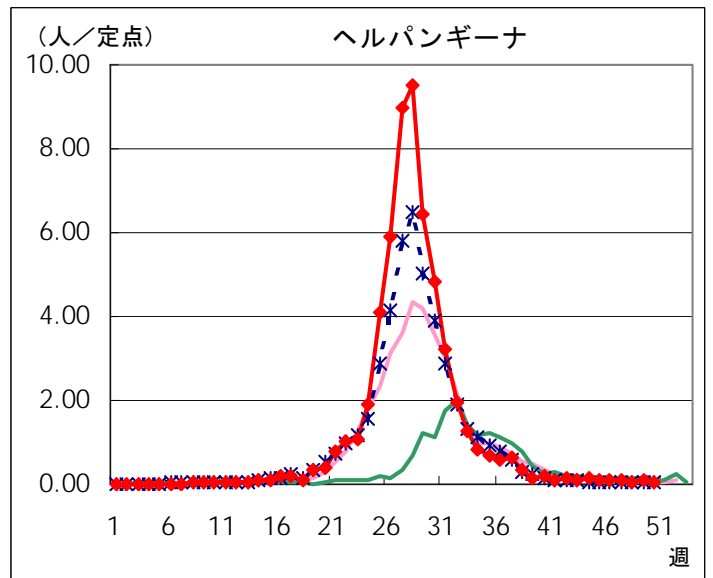
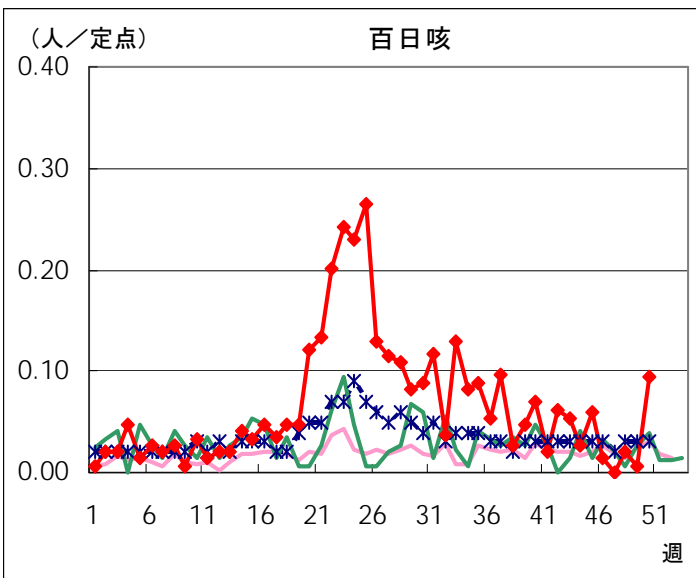
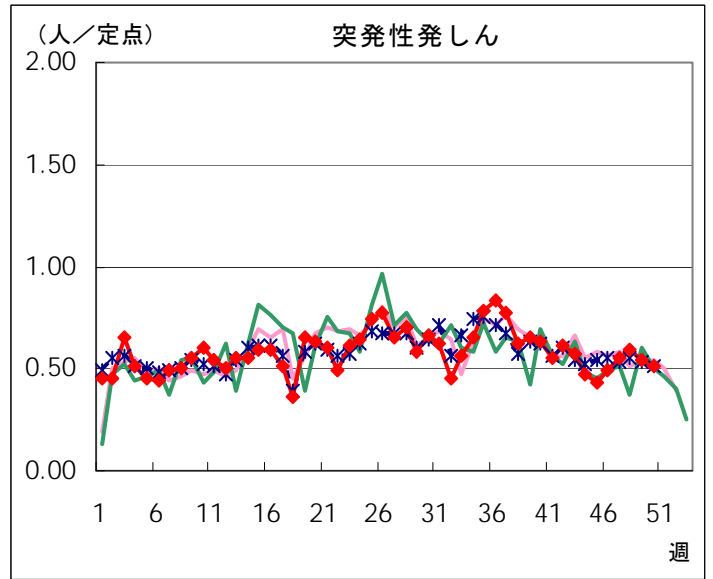
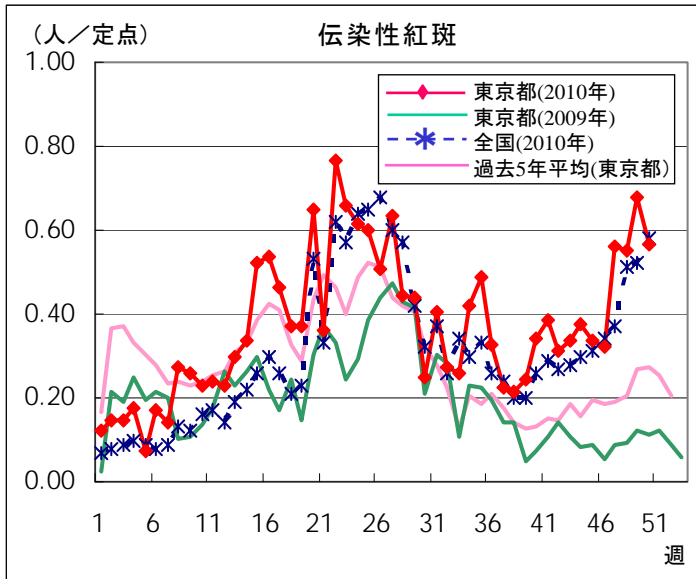
定点種別	小児科									
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	1.00			10.00			0.33	0.67		
中央区			0.67	8.33	0.67			0.67		
みなと	0.83	1.33	3.50	12.00	3.50	0.17	0.17	1.00	0.33	
新宿区	1.00	0.33	1.83	14.50	0.50		0.17	0.50		
文京	2.00		3.00	21.67	2.67					
台東	2.00	2.33	1.67	23.00	2.00		1.33	0.67		0.67
墨田区	0.33	0.67	3.33	12.00	7.67					
江東区	0.50	0.50	5.25	42.25	1.50	0.25	1.50	0.75		
品川区	0.17		1.50	17.00	0.67	0.17	0.33	0.17		0.17
目黒区				12.67	0.67	0.67	0.33			
大田区	1.00	2.33	3.67	23.44	1.33	0.33	1.89	0.33		
世田谷		0.13	1.25	22.63	2.13	0.38	1.25	0.25		
渋谷区		0.75	1.75	9.50	0.25	0.25		0.25		
中野区	0.33	1.17	2.33	16.17	0.67			0.83		0.17
杉並			0.50	17.17	1.33		0.50	0.50		
池袋	0.75		0.25	11.00	0.75			0.50		
北区			2.25	23.50	2.75		0.25	0.75		
荒川区	0.50	3.00	6.00	20.50	1.00			1.50		
板橋区		0.17	0.67	6.50	1.17				0.17	
練馬区		0.17	3.33	20.83	1.50		0.17	0.33	0.33	
足立	0.40	3.60	7.20	29.00	1.20	0.40		1.00		
葛飾区			3.50	17.50	1.50	0.25	1.00	0.50		
江戸川	1.20	2.00	16.40	30.00	1.20		1.60	0.40		0.20
八王子市	2.50	1.25	5.75	52.25	7.25	1.00	3.50	1.00	1.75	
西多摩	1.00		0.20	20.80	3.40		0.20	0.20	0.40	
南多摩	0.25	1.00	5.25	17.25	2.00			0.25		0.25
町田	1.25		8.00	56.25	6.50	0.25		1.25		
多摩立川		0.50	0.67	7.17	1.83		0.50	0.17		
多摩府中	1.50	0.40	2.10	11.30	1.50	0.10	0.60	0.50		
多摩小平	6.00	2.00	5.50	28.50	4.33			1.33		
島しょ		3.00	1.00							
東京都	0.84	0.81	3.15	19.90	2.01	0.14	0.56	0.52	0.09	0.04

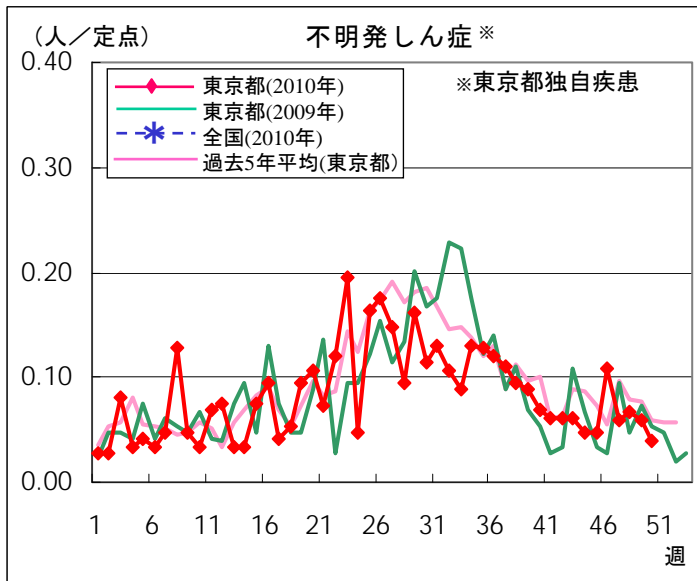
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田		0.33		0.75		
中央区	0.67					
みなと	1.50			0.75		
新宿区		0.17		0.56		0.50
文京	0.33			0.20		
台東				3.20		
墨田区				1.50		1.00
江東区	1.25			2.00		2.00
品川区	0.50			6.50		1.00
目黒区	0.67			1.00		
大田区	0.67			2.50		1.00
世田谷	0.63			1.63		0.50
渋谷区				1.00		
中野区		0.17		0.67		2.00
杉並	0.17			1.33		3.00
池袋				0.86		
北区				1.29		
荒川区				1.75		1.00
板橋区	0.17	0.17		0.33		2.00
練馬区	0.50			0.62		2.50
足立	0.40			1.00		0.50
葛飾区				1.56		
江戸川	0.20			1.17		
八王子市	0.75	0.50	0.25	4.70		1.50
西多摩				2.00		
南多摩	0.50			1.00		
町田	1.25			2.00		
多摩立川	0.50		0.17	1.31		
多摩府中	0.20			0.86		
多摩小平	0.33			1.86		4.00
島しょ	6.00			0.50		
東京都	0.43	0.04	0.01	1.57	-	0.95

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2010年50週現在

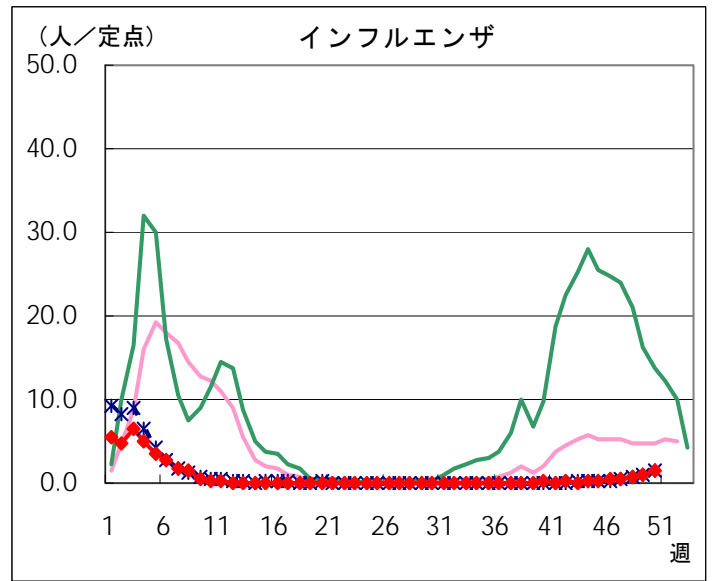
◆ 小児科定点



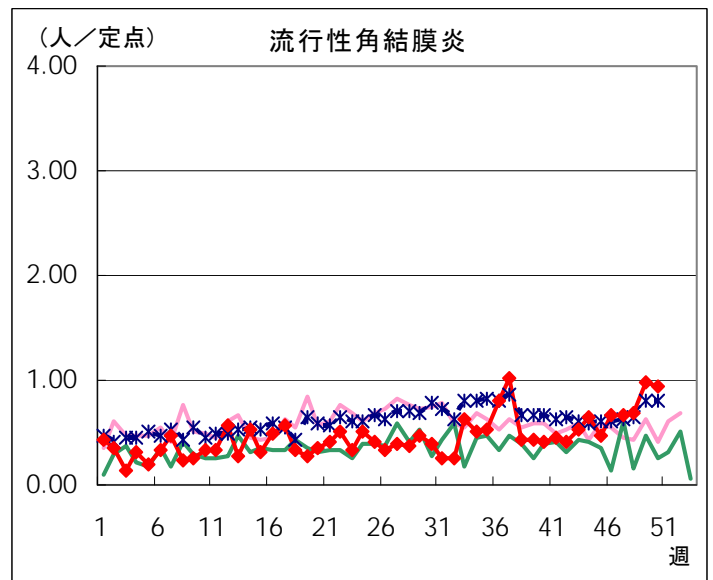
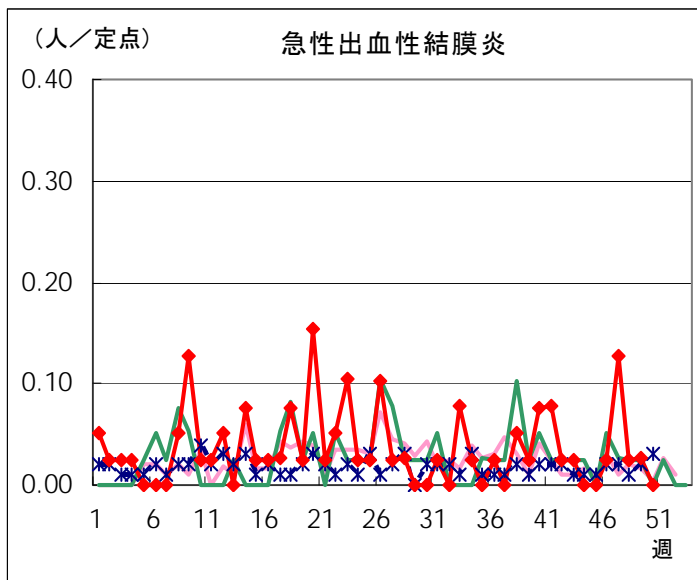




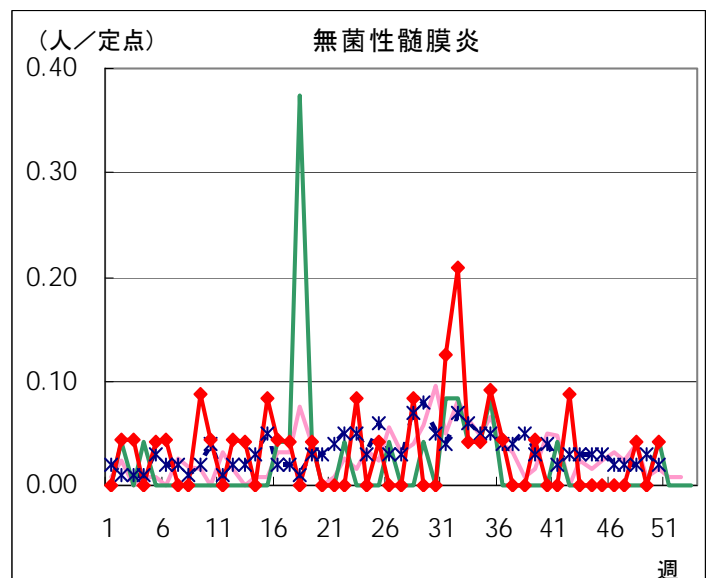
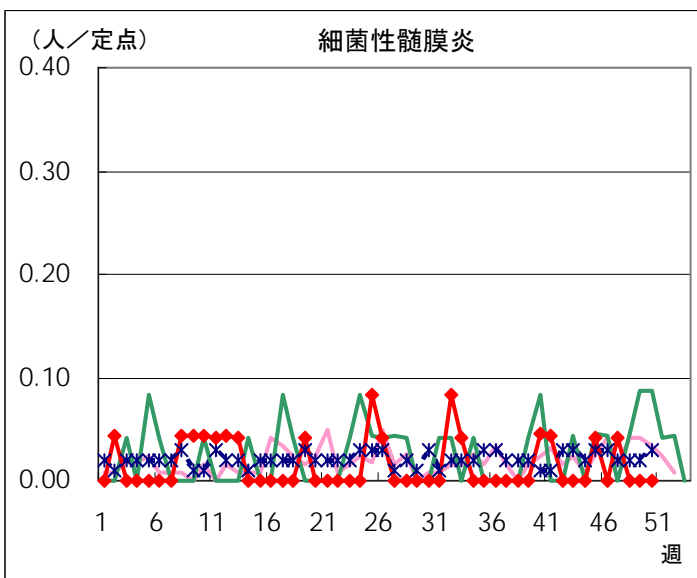
◆ インフルエンザ定点

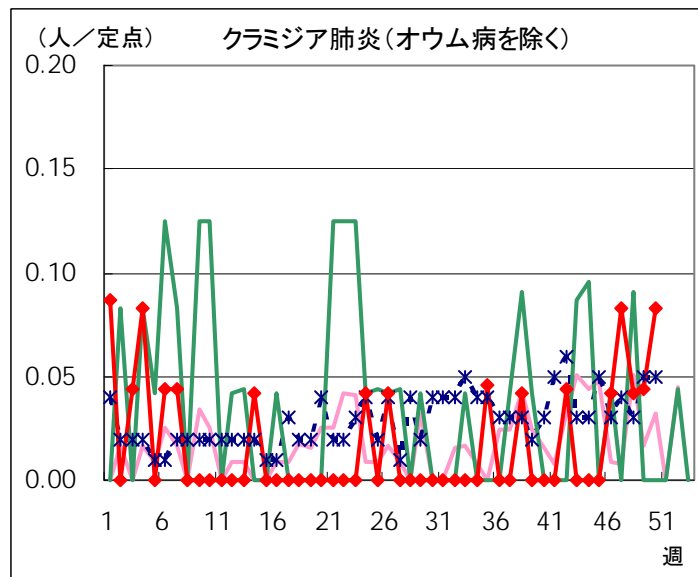
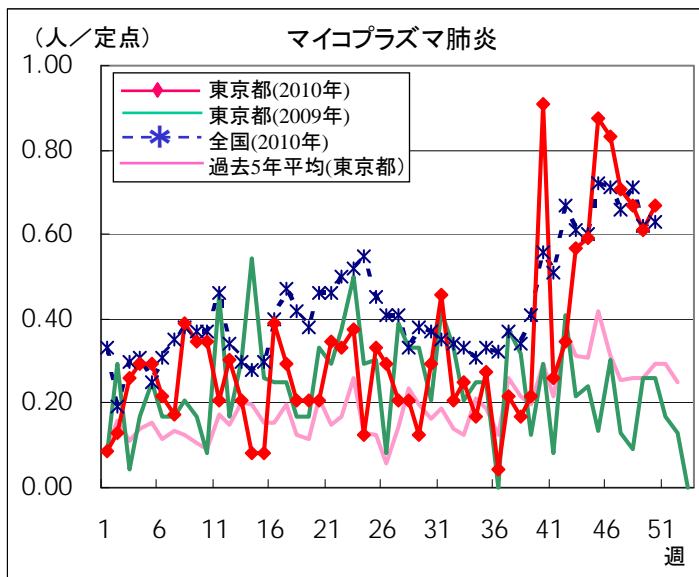


◆ 眼科定点

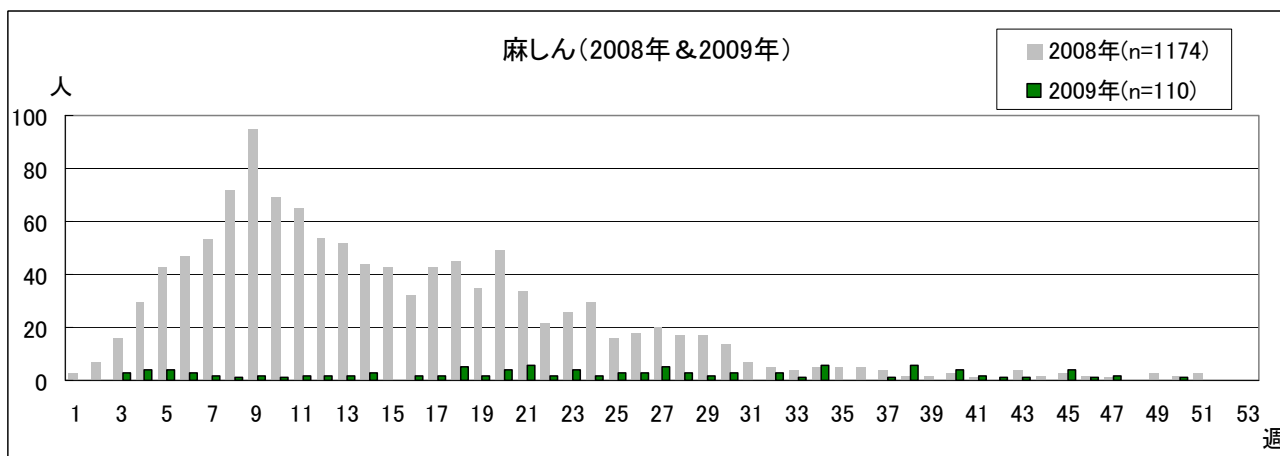
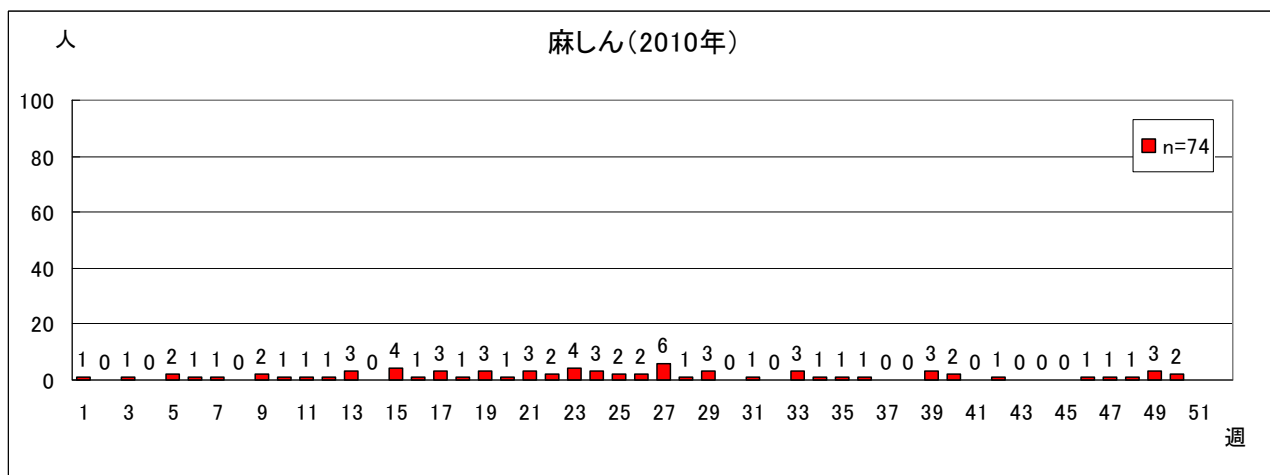


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2010年50週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
新宿区	1		
台東区	2	4	
		2	
	4	4	
江東区	3	3	
	6		いずれもA型で家族内感染(2家族3名ずつ)
	1	1	
品川区	1		
	5		
目黒区	5		
大田区	1		今シーズン2人目のインフルエンザでしたが、品川区の患者さんでした。
	2		
	2		
	15		
	6		
世田谷	2		
	1		
	1		
渋谷区	1		
	2		
	2		
中野区	1		予防接種はまだ1回接種の児童でした。
	3		
	2		
杉並	2		
	1		
池袋	1		
北区	1		
	3		
南多摩	3		
	2		
多摩立川	2		
多摩府中	1		

定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
11/22	百日咳	2	後鼻腔拭い液	メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (コアグラーゼ:Ⅳ型) 感受性は①参照	菌型 分離同定 薬剤感受性
11/29	百日咳	30	後鼻腔拭い液	百日咳菌	遺伝子 分離同定
				メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (コアグラーゼ:Ⅶ型) 感受性は②参照	分離同定 薬剤感受性
11/30	感染性胃腸炎	4M	糞便	ノロウイルス(GⅡ)	遺伝子
12/2	咽頭炎	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	
12/3	ウイルス性細気管支炎	2	咽頭拭い液	アデノウイルス、RSウイルス	
12/4	流行性耳下腺炎	2	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
12/4	不明熱	3	鼻汁	エンテロウイルス	
12/6	不明発しん症	5	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/6	急性胃腸炎	記載なし	糞便	ノロウイルス(GⅡ)	
12/6	ウイルス感染症	3	鼻汁	ライノウイルス、RSウイルス	
12/6	ウイルス性気管支炎	7M	咽頭拭い液	ライノウイルス、RSウイルス	
12/6	インフルエンザ	6	鼻汁	アデノウイルス、ライノウイルス	
12/6	インフルエンザ	5	咽頭拭い液	アデノウイルス 新型インフルエンザウイルスAH1pdm ※1	
12/6	急性気管支炎	14	咽頭拭い液	アデノウイルス 新型インフルエンザウイルスAH1pdm ※1	
12/6	急性胃腸炎	9M	直腸拭い液	ノロウイルス(GⅡ)	
12/6	ウイルス性肺炎	1	糞便	RSウイルス	
12/7			咽頭拭い液		
12/7	不明発しん症	2	咽頭拭い液	アデノウイルス ヒトヘルペスウイルス 7型	
12/7	流行性角結膜炎	36	結膜拭い液	アデノウイルス	
12/7	ウイルス性細気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス、RSウイルス	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/7	気管支喘息	4	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
12/7	急性扁桃炎	4	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/8	感染性胃腸炎	10M	糞便	ライノウイルス、ノロウイルス(G II)	
12/9	不明熱	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/9	インフルエンザ	16	咽頭拭い液	ライノウイルス 新型インフルエンザウイルスAH1pdm ※1	
12/9	急性気管支炎	3M	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/9	急性咽頭炎	9	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/9	急性胃腸炎	2	直腸拭い液	アデノウイルス、ノロウイルス(G II)	
12/10	手足口病	1	咽頭拭い液	ライノウイルス	
12/10	耳下腺腫脹	7	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
記載なし	ウイルス性細気管支炎	10M	咽頭拭い液	RSウイルス	
記載なし	記載無し	記載なし	糞便	ノロウイルス(G II)	

※1：下記「遺伝子検査法によるインフルエンザの亜型」の集計数に含まれる

薬剤感受性検査結果：メチシリン感受性黄色ブドウ球菌①・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌②

参照番号	CEZ	CTX	IPM	EM	CAM	GM	VCM	MINO	OFLX	ABPC	MPIPC
	セファンリン	セフトキシム	イミペネム	エリスロマイシン	クラリスロマイシン	ゲンタマイシン	バンコマイシン	ミノサイクリン	オフロキサシン	アンピシリン	オキサシリン
①	s	s	s	R	R	s	s	s	s	R	s
②	R	R	R	R	R	R	s	I	R	R	R

s: 感性(感受性), I: 中等度, R: 耐性

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型

検出件数	インフルエンザウイルス			
	AH1型	AH3型	B型	AH1pdm(新型*)
49週	0	3	0	8
2010-2011年 シーズン累計**	0	34	3	16

*：新型インフルエンザ(pandemic H1N1 2009)。

**：2010-2011シーズンの開始は第36週(2010年9月6日～9月12日)。

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2010年							
		42週	43週	44週	45週	46週	47週	48週	49週
ウイルス	アデノウイルス	1	3	2	10	12	9	12	12
	ライノウイルス		2	8	10	3	5	4	8
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	6	11	3	3	4	2	10	1
	単純ヘルペスウイルス				1	1			
	水痘・帯状疱疹ウイルス								
	ヘルペスウイルス6/7	5	2	2	2	3		3	1
	EBウイルス	4	1	1				2	
	サイトメガロウイルス			1		2			
	ムンプスウイルス	1	3	1					2
	麻疹ウイルス								
	風しんウイルス								
	パルボウイルスB19	2	2	1		1		1	
	RSウイルス	2	5	3	7	2	4	8	8
	ノロウイルス	1	3		2		4	16	6
	ロタウイルス								
インフルエンザウイルスAH1									
インフルエンザウイルスAH3	4	2	3	8	3	3	5	3	
インフルエンザウイルスB					2				
新型インフルエンザウイルスAH1pdm		1		2	1	1	1	8	
デングウイルス(抗体を含む)				3					
その他のウイルス						1			
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌						1	4	
	百日咳	3	1		2	4	4		1
	マイコプラズマ		2	3		1		1	
	その他の細菌	1	2		3	1	3		2
その他の病原体					1				

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2010年42週～2010年49週

臨床診断名 検出病原体	インフルエンザ	上気道炎	下気道炎	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	流行性角結膜炎	ヘルパンギーナ	手足口病	伝染性紅斑	不明発しん症	流行性耳下腺炎	水痘	麻疹	風しん	その他	
搬入検体数	68	45	125	46	20	6	12		7	8	21	7					95	
ウイルス	アデノウイルス	3	13	16	3	4	5				8						9	
	ライノウイルス	2	4	16	8					2	1	1	1					5
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	7	6	6	6	5			4		3							3
	単純ヘルペスウイルス		1					1										
	水痘・帯状疱疹しんウイルス																	
	ヘルペスウイルス6/7			1							1	11						5
	EBウイルス		1			1			1				3					2
	サイトメガロウイルス											3						
	ムンプスウイルス					2							5					
	麻疹しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19										4	3						
	RSウイルス		5	30					1									3
	ノロウイルス			1	29													2
	ロタウイルス																	
	インフルエンザウイルスAH1																	
インフルエンザウイルスAH3	31																	
インフルエンザウイルスB	2																	
新型インフルエンザウイルスAH1pdm	13		1															
デングウイルス(抗体を含む)																	3	
その他のウイルス																	1	
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌		5															
	百日咳		1	11													3	
	マイコプラズマ			5													2	
	その他の細菌			10													2	
その他の病原体			1															

月報告 定点把握対象疾患 報告数 2010年11月

定点種別	対象疾患	性別	報告数	定点当たり 報告数	報告医療 機関数	定点医療 機関数
性 感 染 症	性器クラミジア感染症	男	109	2.02	54	55
		女	94	1.74		
	性器ヘルペスウイルス 感染症	男	59	1.09		
		女	37	0.69		
	尖圭コンジローマ	男	49	0.91		
		女	14	0.26		
	淋菌感染症	男	76	1.41		
		女	9	0.17		
	膺トリコモナス症*	男	0	0.00		
		女	15	0.28		
梅毒様疾患	男	6	0.11			
	女	0	0.00			
基 幹	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	男	72	3.00	24	25
		女	42	1.75		
	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	男	33	1.38		
		女	23	0.96		
	薬剤耐性 緑膿菌感染症	男	1	0.04		
		女	1	0.04		

2010/12/22

* 性感染症定点から報告される『膺トリコモナス症』とは、原虫の一種である膺トリコモナス(Trichomonas vaginalis)による疾患を指し、女性の膺、男性の尿道、前立腺などの生殖器や泌尿器に寄生して引き起こされる感染症である。ヒトに寄生するトリコモナスには、他に口腔トリコモナスや腸トリコモナスがある。

月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【年齢階級別】2010年11月

男						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	2		2	2		
20～24歳	18	1	5	13		1
25～29歳	15	5	5	14		1
30～34歳	22	15	8	15		1
35～39歳	15	8	10	8		1
40～44歳	17	6	7	9		
45～49歳	8	7	7	7		
50～54歳	3	5	1	3		2
55～59歳	4	3	3	3		
60～64歳	2	4	1	2		
65～69歳	3	2				
70歳～		3				
合計	109	59	49	76		6
先月数	126	70	52	78		10
増減数	-17	-11	-3	-2		-4

女						
年齢階級	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	15	1	2	1	2	
20～24歳	30	8	4	6	2	
25～29歳	23	9	2	1	3	
30～34歳	18	6	2		3	
35～39歳	5	3			2	
40～44歳	2	3	1	1	1	
45～49歳	1	3	1		1	
50～54歳		2				
55～59歳						
60～64歳			1			
65～69歳		1	1		1	
70歳～		1				
合計	94	37	14	9	15	
先月数	101	36	22	13	12	1
増減数	-7	1	-8	-4	3	-1

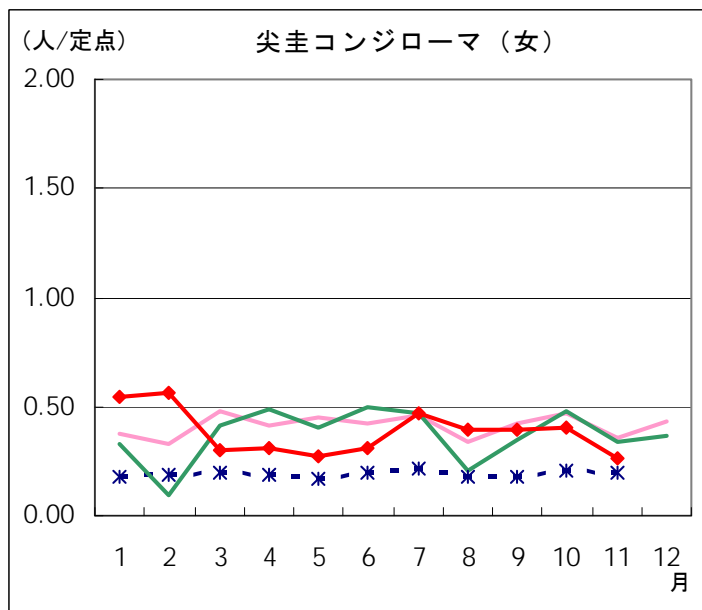
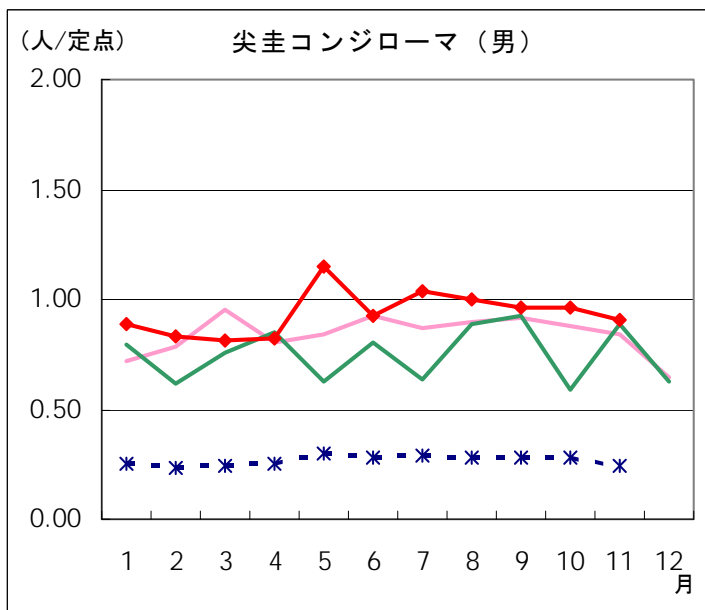
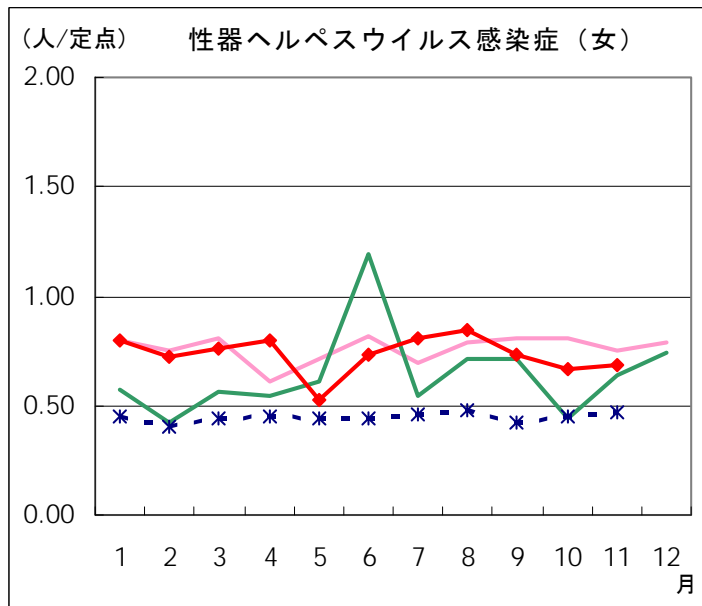
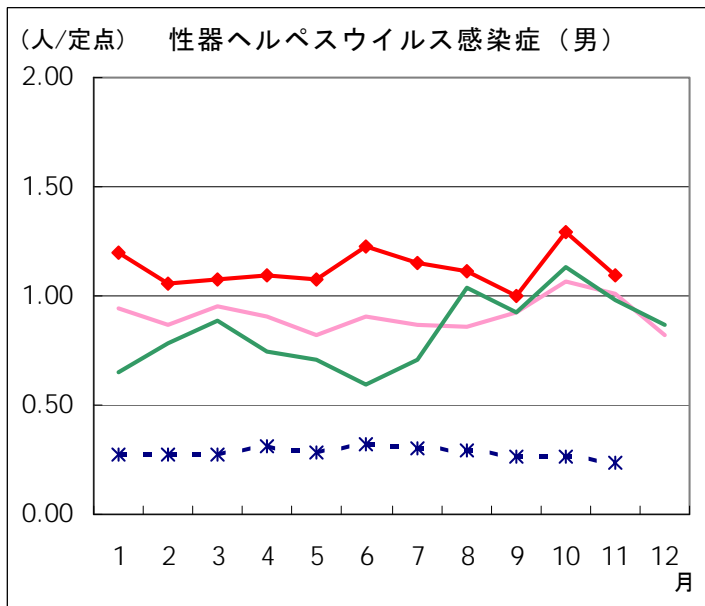
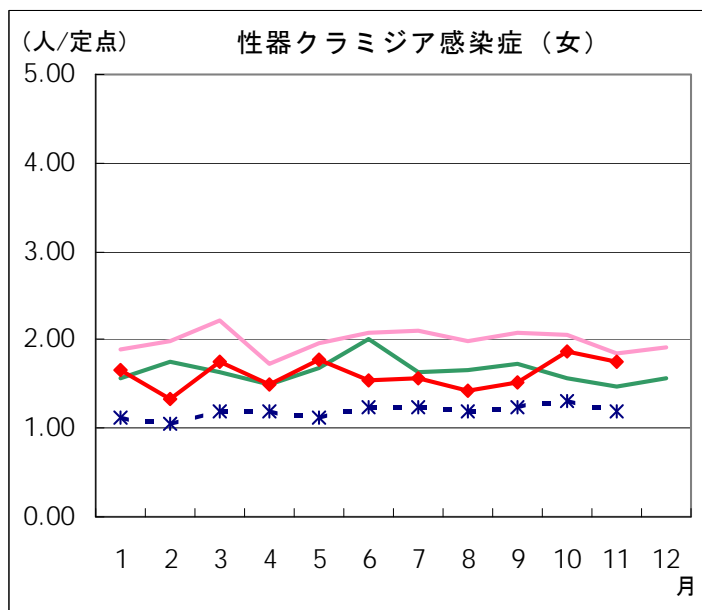
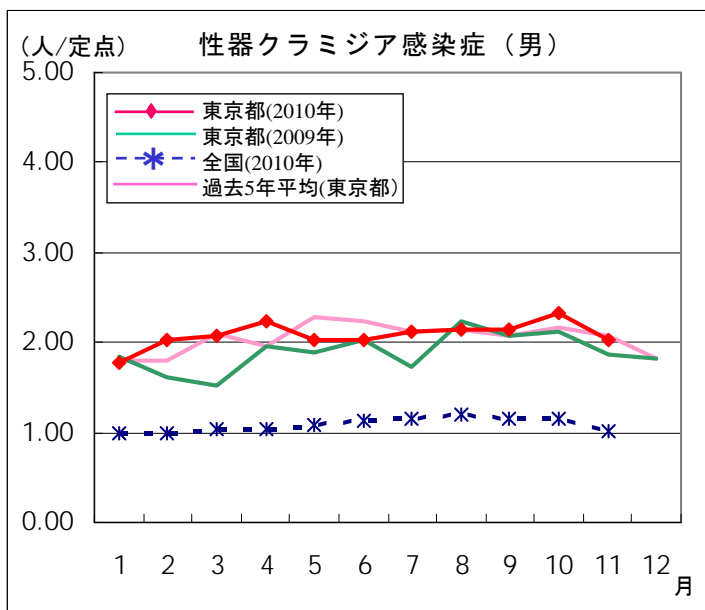
月報告 定点把握対象疾患(性感染症) 報告数【保健所別】 2010年11月

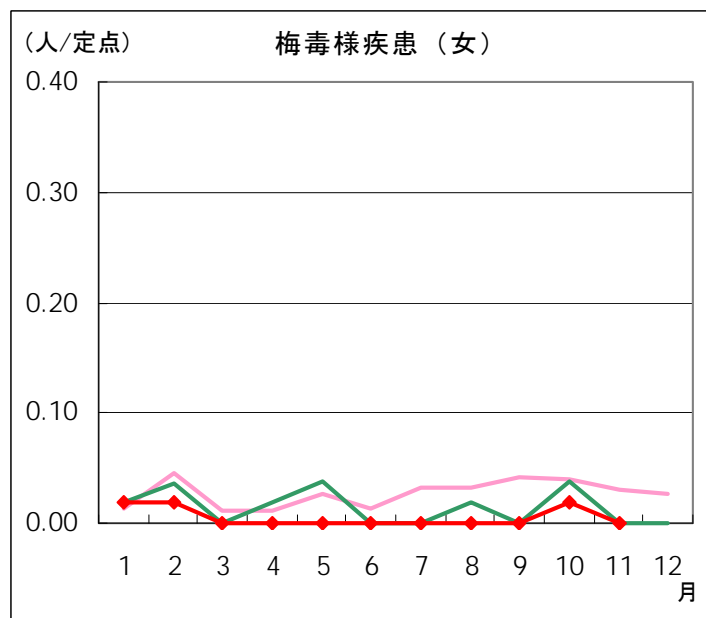
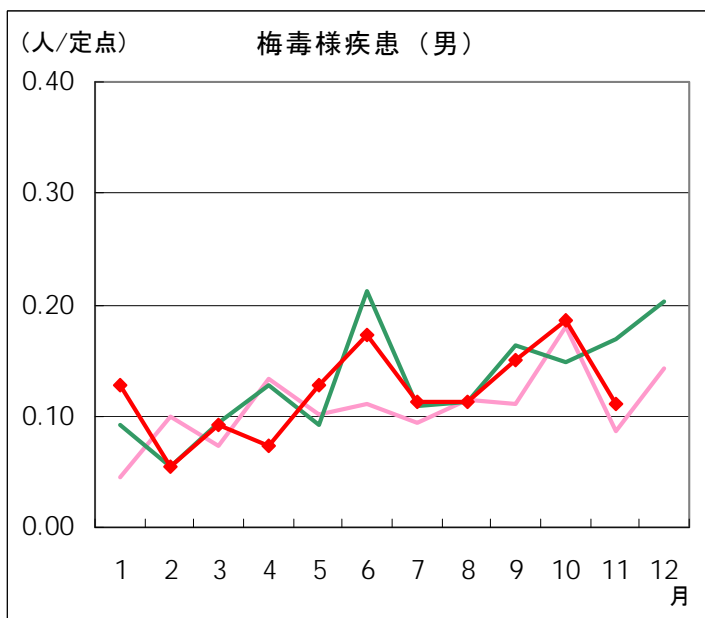
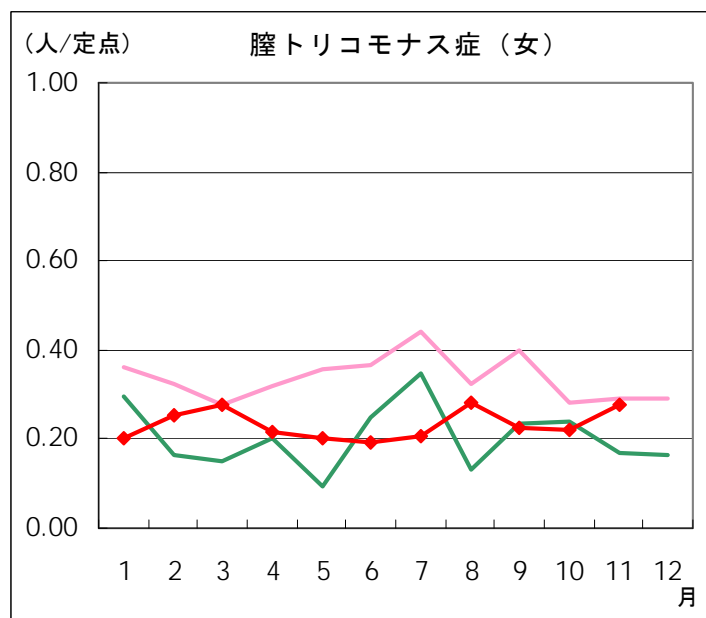
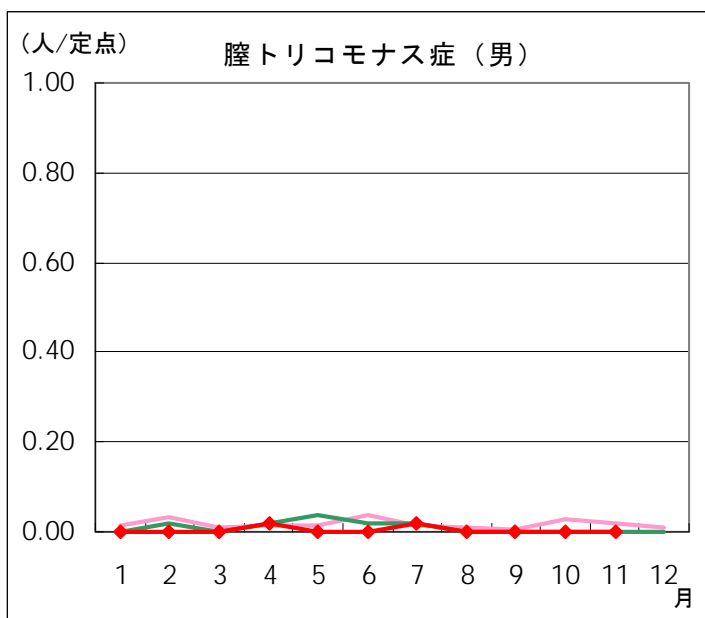
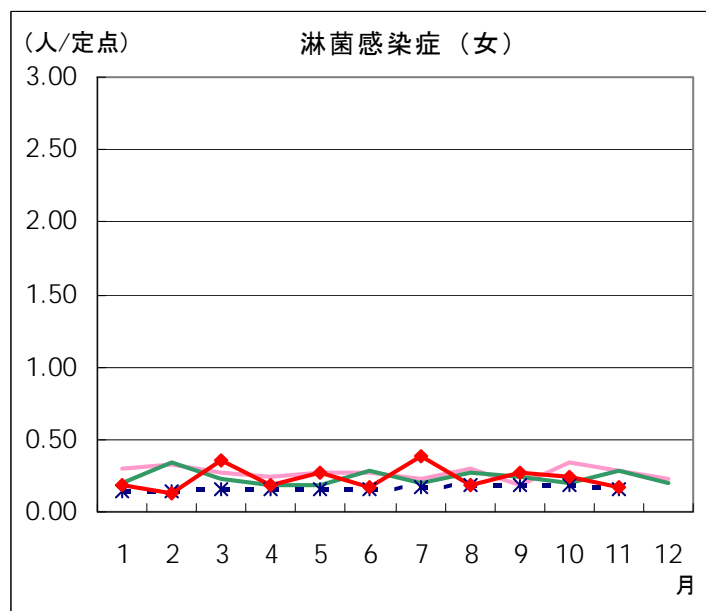
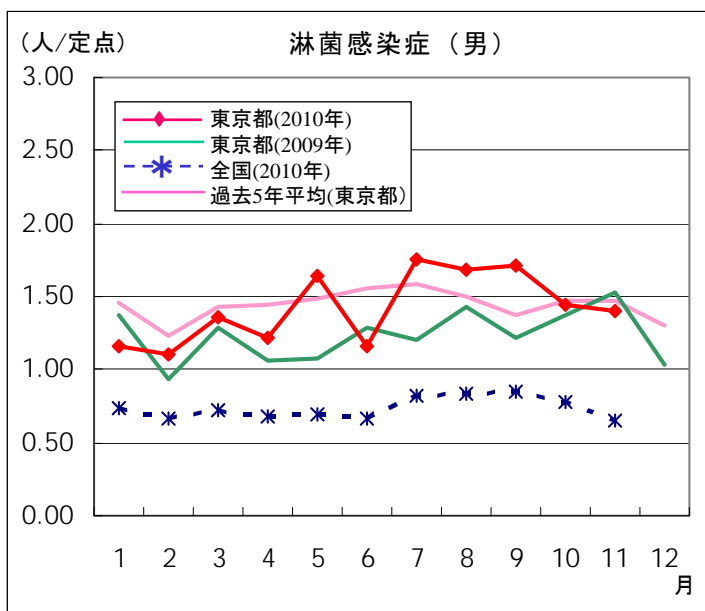
男							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	9	2	5	10		1
中央区	3	9	2		3		
みなと	2	7	30	11	7		
新宿区	7	28	15	18	23		4
文京	1	5		1	2		
台東	2						
墨田区	2		1	2	1		
江東区	2	12	2	2	9		
品川区	1	2	1		1		
大田区	2	4			2		
渋谷区	4	1	2				
中野区	2	1			2		
杉並	2	7			3		
池袋	3	15	3	8	8		1
北区	1	2		1			
荒川区	1						
板橋区	2	1		1	1		
足立	2	2			3		
江戸川	2	4	1		1		
八王子市	4						
町田	1						
多摩立川	2						
多摩府中	3						
多摩小平	1						
合 計	54	109	59	49	76		6
定点当たり		2.02	1.09	0.91	1.41		0.11

女							
保健所名	定点数	性器クラミジア 感染症	性器ヘルペス ウイルス感染症	尖圭 コンジローマ	淋菌感染症	膣トリコモナス症	梅毒様疾患
千代田	2	1					
中央区	3	3				1	
みなと	2	4	7	3			
新宿区	7	17	7	8	7	1	
文京	1						
台東	2	2	2			1	
墨田区	2		1	2			
江東区	2	1					
品川区	1						
大田区	2	4					
渋谷区	4	6	5			3	
中野区	2	1		1		1	
杉並	2	1					
池袋	3	9	2		2	1	
北区	1						
荒川区	1						
板橋区	2	8	6				
足立	2						
江戸川	2	15				1	
八王子市	4	9	5				
町田	1	2	2			2	
多摩立川	2	11				4	
多摩府中	3						
多摩小平	1						
合 計	54	94	37	14	9	15	
定点当たり		1.74	0.69	0.26	0.17	0.28	

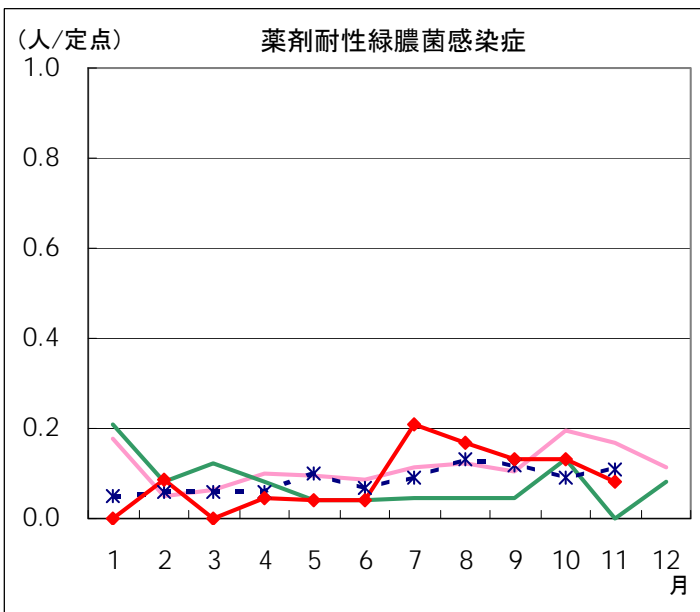
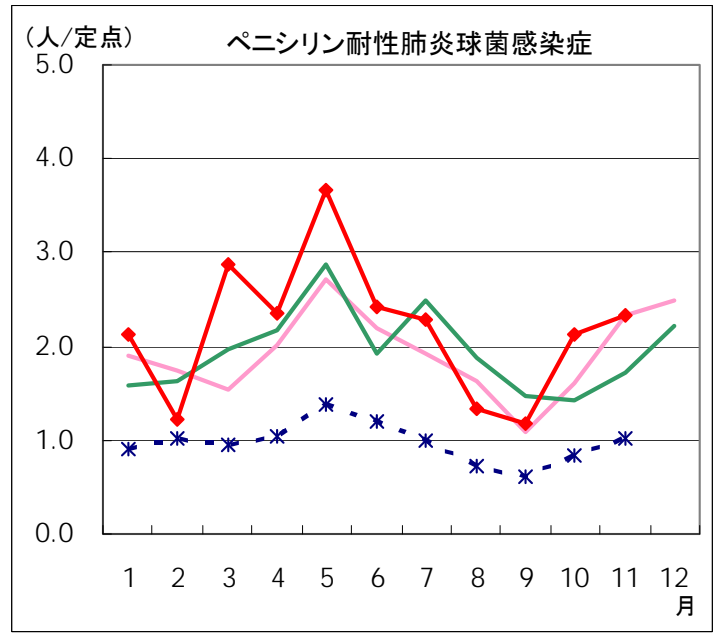
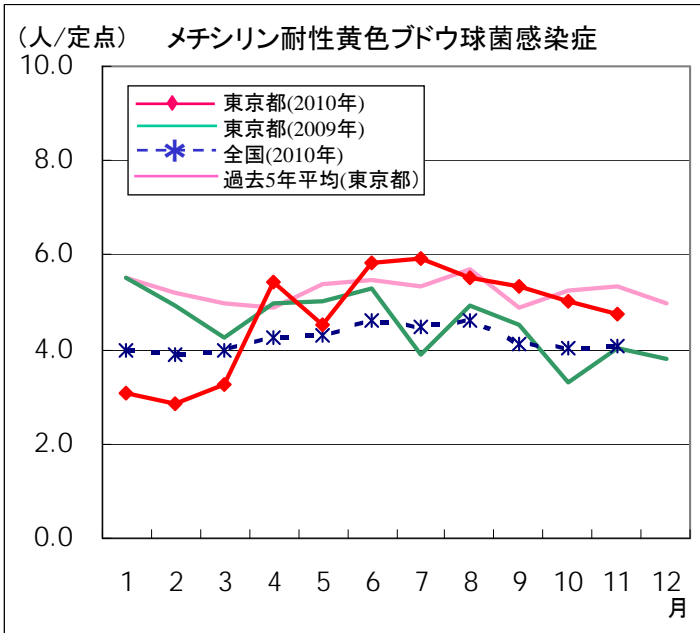
月報告 定点把握対象疾患報告数【月別発生状況】 2010年11月現在

◆ 性感染症定点





◆ 基幹定点



月報告 病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体受付日の順に掲載しています。

受付月日	臨床診断名	年齢	性別	検査試料	検出病原体	検査法
11/1	クラミジア膣炎	21	女	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	遺伝子
11/1	尿道炎	42	男	尿	クラミジア	
11/2	尿道炎	67	男	尿	クラミジア	
11/2	淋菌性尿道炎	37	男	尿	淋菌	遺伝子 分離同定
11/4	尿道炎	35	男	尿	クラミジア	遺伝子
11/8	陰茎ヘルペス	62	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 2型	
11/8	陰茎コンジローマ	57	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 11型	
11/8	淋菌性尿道炎	41	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	淋菌	遺伝子 分離同定
11/8	尿道炎	53	男	尿	淋菌	
11/8	尿道炎	58	男	尿	クラミジア	遺伝子
11/9	陰茎コンジローマ	30	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒトパピローマウイルス 6型	
11/10	尿道炎	44	男	尿	クラミジア	遺伝子 分離同定
11/10	尿道炎	52	男	尿	淋菌	
11/10	尿道炎	34	男	尿	淋菌	
11/11	尿道炎	25	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	遺伝子
11/18	尿道炎	31	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	クラミジア	
11/22	陰茎ヘルペス	75	男	陰部尿道頸管擦過物/ 分泌物	ヒト単純ヘルペスウイルス 1型	
11/24	淋菌性尿道炎	32	男	尿	淋菌	遺伝子 分離同定
11/24	淋菌性尿道炎	35	男	尿	淋菌、 <i>Candida albicans</i>	
11/26	尿道炎	34	男	尿	クラミジア	遺伝子

<感染症豆知識>

「ロタウイルス感染症」

小児感染性胃腸炎の25～30%はロタウイルス感染症で最も多く、5歳までに大部分の子供が罹患する。最近6年間の発生動向をみると流行時期は1～5月で、ピークは年次春に移動し4月である。日本では年間約8万人が入院し、死亡は10人程度とされている。発展途上国を中心に毎年数十万人が死亡している。ロタウイルスはRNAウイルスでレオウイルス科に属し、車輪状の外観から名づけられた。腸管上皮細胞に感染し、細胞質内で増殖する。抗原性の違いでA～G群に分類され、大部分はA群が急性胃腸炎の原因になる。B群はアジアで流行し日本では報告がない。C群は1988年に集団発生の報告があり、毎年少数散発している。潜伏期間は2～4日で、感染性は非常に強い。糞口感染で、物品を介し間接感染する。主要症状は発熱(34～86%)、嘔吐、水様性下痢で、呼吸器症状は30～50%ある。合併症に痙攣、肝炎、腎炎、脳症、腸重積、ライ症候群、ギランバレー症候群、心筋炎等の致死性感染症もある。感染後免疫は不完全で再感染するが重症化しない。検査は免疫クロマト法による迅速診断キットが感度、特異性が高く市販されているが、B、C群は検出できない。治療は対症療法である。感染拡大防止は手洗い励行と汚染物品の消毒である。ワクチンは1998年米国でRotashieldsが認可されたが、副反応として腸重積が問題となり中止された。その後RotaTeq (PRV) とRotarixの弱毒経口生ワクチンが開発され、WHOは2009年にすべての国の定期接種に入れるように勧告した。日本では未使用で、両ワクチンとも昨年から今年にかけて承認申請中である。

(文責 くろさわ子ども&内科クリニック 黒澤サト子)